



## ★多様な展開を見せる地域貢献活動

### ● 本年度開始事業!! 「知る・学ぶ・伝える equality」

～地域貢献事業を通じた男女共同参画の推進～

本学は、基本理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材の育成～女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ～」を定めており、これまで教育・研究・運営等のあらゆる場面で、ハード・ソフト両面からの環境整備を進めてきました。そして、これらの環境整備事業を今後も推進する一方で、第2期中期目標期間（平成22～27年度）においても、「学内外における男女共同参画を推進する」ことをその目標に掲げ、地域貢献事業を通じた新たな男女共同参画推進事業をスタートさせました。

本事業では、男女共同参画の根幹である「多様な個性を尊重する」ことを身近な問題として捉え学ぶことを目的に、今年度はビデオ教材等を活用した学習会を5回にわたって開催します。日本国憲法に「男女平等」が書かれた経緯から世界の女性を取り巻く環境まで、各回取り上げる内容は様々で、最終回においては、本学で学ぶ留学生の方々に母国での女性の生き方や男女平等の現況について語っていただく予定です。「男女共同参画という言葉はよく耳にするけれど、具体的にはどういうこと?」という方も沢山いらっしゃると思います。是非、この機会に男女共同参画に関わる様々な話題に触れ、日々の生活に生かせるヒントを探ってみてください。 → 今後の実施予定等は、<http://www.shien-nara-wu.net/> をご覧ください。



### 第1回講座レポート（9月18日、本学附属図書館グループ学習室にて実施）

#### ● DVD「私は男女平等を憲法に書いた」を基に、参加者間で意見交換

日本国憲法の人権規定の基本となる条文（第14条「法の下での平等」、第24条「両性の本質的平等」）が、当時22歳という若さのGHQ 民政局女性職員（ベアテ・シロタ・ゴードン氏）により起草されたという事実に参加者からは驚きの声があがりました。そして、「女性が幸せにならなければ日本は平和にならない」とまで日本女性の幸せを願ったベアテ氏により生まれた権利条項を、私たちが日々の生活の中で主張し、保持していくためにできることは何だろうかという点について、ファシリテータとしてお迎えした奈良県女性センターの西川桜子氏を中心に参加者間で意見交換を行いました。



### ● 「青少年のための科学の祭典2010」奈良大会 ～両日あわせて2,000名を超える来場者で賑う～



9月11～12日、奈良県下で13回目となる「青少年のための科学の祭典2010」奈良大会を本学にて開催しました。この大会は、青少年の理科離れが大きな社会問題として指摘されている昨今の情勢の中、小中高大学の理科、算数・数学教育に携わる教員が中心となって青少年に科学の面白さ、夢中になって追及する楽しさを伝えることを目的としています。会場には教育機関や企業による約50の展示ブースが設置され、本学からも7つの出展を行いました。とりわけ理学部物理科学科はサイエンス・オープンラボの授業の一環として参加し、光と電気に関連した身近な物理学の楽しさを紹介する学生たちの前には絶え間なく子どもたちが訪れていました。また、附属中等教育学校は「猿沢池の七不思議を探る」と題して、生徒たちが採集したプランクトンなどを披露しました。



物理科学科ブース

普段の学校の授業では体験できない科学の世界で、中には2日にわたって様々な工作や実験を楽しむ子どもたちの姿もありました。アンケートに残された「また来たい」という言葉からも、今大会が子どもたちに科学の幅広い魅力を伝える場となったことは間違いありません。

★「科学の祭典」は、子どもたちの理科教育を進める場であると同時に、小中高の先生方が、授業のヒントを得られる場でもあります。また会場では、奈良県下の中高生の発表が多く、日頃の科学クラブ等での彼らの活動成果を多くの方々に見ていただく場を提供したという意味でも、本学での今回の開催は地域貢献に力を発揮できたと言えると思います。

「青少年のための科学の祭典2010」奈良大会実行委員会  
委員長 春本 晃江（理学部生物科学科 教授）

### ★若手女性研究者支援経費採択通知式

7月2日、今年度の若手女性研究者支援経費採択者(41名の応募から13名採択)に対する採択通知式が開催されました。この支援経費は、大学院博士後期課程2年次生以上の優秀な学生等に対し、その研究活動を支援するために、平成17年度から実施されています。採択通知式では、野口学長から一人ひとりに採択決定通知書が手渡されるとともに、「皆さんが優れた研究成果をあげるにより、今後の若手研究者の研究活動がさらに活発化することを期待しています」との激励の言葉が贈られました。



### ★第48回 近畿地区国立大学体育大会の結果

近畿地区の国立大学において、学生の課外活動の健全なる発展を図るとともに相互の親睦に資することを目的とした「近畿地区国立大学体育大会」が今年も8月に開催され、各種目熱戦が繰り広げられました。本学は12種目に出場し、弓道部が準優勝、卓球部が第3位の好成績を残したほか、延奈留美さん(理学部2年次生)が水泳女子200m自由形で見事第1位に輝きました。

### ★オープンキャンパス

～夏の開催過去最高を更新する2,600名以上が参加～

7月24日、真夏の太陽が照りつける中、今年度第1回目のオープンキャンパスを開催しました。今夏は、年々増加傾向にある来場者数を踏まえて学部別の会場設定とし、野口学長による歓迎挨拶はストリーム配信で各会場に流されました。そして、参加者の方々には、様々な角度から本学の魅力を味わっていただく各学科の研究内容を紹介する模擬授業や在学生によるキャンパスツアーなど多彩な催しを体験して頂きました。11月6日には、学園祭にあわせて第2回目のオープンキャンパスを開催します。



大学ガイダンスの様子

### ★収蔵庫完成

本学が所有する貴重な美術品・収蔵品の保存・管理性を高め、過去の資料を今後の教育研究活動に活用させることを目的として、旧ボイラー室を収蔵庫に改修しました。



この夏、学生寮の玄関先でカルガモが産卵しました。約10日後には、ヨチヨチと。残念ながら、お引越先は？です。



### ★共生科学研究センター主催

#### 「小中学生向け東吉野村野外体験実習」

8月28～29日、豊かな自然に恵まれた東吉野村にて、共生科学研究センター主催による野外体験実習を開催しました。参加メンバーは、小学生36名とその父兄10名で、1日目は清流、四郷川に生息する魚や水生昆虫の観察を、2日目は森作り体験として、約1時間ヒノキ植林内を登った後に、地元林業家の方の指導を受けながら下枝切りを行いました。厳しい暑さの中でも、皆、額の汗を拭いながら、仲間との語らいを楽しみつつ、都会では体験できない自然との触れ合いを満喫した様子でした。体験は学びの土台・出発点です。今回の体験実習が、ひと夏の貴重な思い出となると同時に、子どもたちのその後の学習意欲や環境保全への意識向上につながることを期待されます。



四郷川での生き物観察

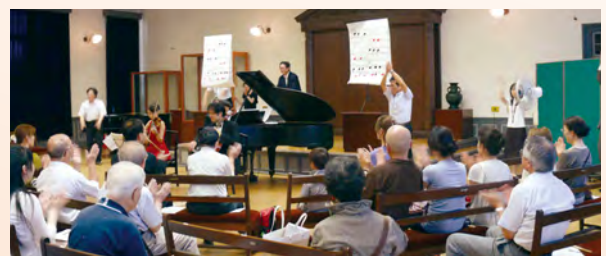


ヒノキ植林内登山

### ★記念館でふれあいコンサート

～真夏の夕刻に届いた音楽感動宅配便～

8月4日、記念館で開催した「ふれあいコンサート」は、ヴァイオリニスト吉田恭子さんが中心となって推進する「ふれあいトリオ」プログラムの1つです。21世紀を生きる子どもたちに美しいものを愛する気持ちを育んでほしい、そしてまた地域の方々にも音楽の素晴らしさを味わって欲しいという願いから、これまで数々の演奏活動を展開されてきました。コンサートでは、ヴァイオリン・チェロ・ピアノ、3つの楽器から見事なハーモニーが奏でられるとともに、演奏の間には、参加者全員で体を使ったリズム遊び「ボディパーカッション」を楽しむ時間が設けられました。子どもも大人も音楽を通して心を1つにする喜びに笑みがこぼれ、心温まる雰囲気会場内いっぱい広がりました。



会場内全員で楽しんだボディパーカッション



## ★フードテック 2010 に出展

～奈良漬サブレ第2弾も初公開～

9月7～10日、今年で15回目を迎える食品産業の総合見本市「フードテック2010-国際食品産業展2010大阪」がインテックス大阪で開催されました。会場では、最新の食品製造・加工機械の展示・実演のほか、食の研究に携わるメーカー、大学、研究機関等がそれぞれの開発商品を紹介するコーナーも設けられ、本学は大学を象徴する美しい「正門と記念館」をバックパネルに、地場企業との連携により生み出した奈良ならではの商品を多数出展しました。



「ほろっと~しょうがの奈良漬(右)」は、より甘さを控えめに。

今回、初めてののお披露目となったのは、半年がかりの試作を重ねて完成した「しょうがの奈良漬サブレ」、「ほろっと~しょうがの奈良漬」の2商品。これらは従来の「奈良漬サブレ」の白瓜に代わり、酒粕と味噌粕に長期間漬け込んだしょうがを使用しています。ご試食いただいた来場者の間でも、「すっごくしょうがの香りと味がするね！塩気がきいておいしい！」、「これならお土産に買って帰りたいな」など、その評判は上々でした!!口に入れると、芳醇なしょうがの香りが広がる新しい奈良の味、是非一度、お試しください。

## ★イノベーション・ジャパン 2010



9月29日～10月1日、産と学をつなぐ国内最大級のマッチングイベント「イノベーション・ジャパン 2010」が東京国際フォーラムで開催されました。本学は、平成19年から出展を続けており、今年は「環境」分野において、「文化財保全環境モニター開発～土壌由来のカビの検出」(理学部生物科学科 鈴木孝仁教授・岩口伸一准教授、化学科 竹内孝江准教授による研究)を紹介しました。本開発は、カビによる文化財の劣化や損傷を防止するために微生物の固有な分泌揮発成分に着目し、フィンガープリント・データベースを構築したもので、古墳などの文化財保全市場や美術館、博物館等での用途が想定されています。

## ★文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に本学が申請した事業が選定

文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に本学が申請した「女性の生活様式を考慮したキャリア教育」が選定されました。本事業は、大卒者の就職環境が厳しさを増す中、就業力の育成に主眼を置いて全学的に教育改革を行おうとする意欲ある大学に対し、国が緊急かつ強力に支援を行うことを目的としています。今回選定された事業は、本学がこれまで個別に実施してきた教養教育、専門教育、キャリア教育、就職ガイダンスを体系化し、それらを統合キャリア教育として教育の中心に据えること、そして更に新しい職業分野に対応すべく、在宅起業等の新しい女性の生活様式、企業人女性のキャリアパスを学ぶことができる教育体制を整備することを目指しています。

## ★「農ガールズ」

～私達が和和伝統野菜を広めます!!～

ここ奈良の地で、戦前から栽培されてきた「和和伝統野菜」。その一部【大和まな・小しょうが】は本学が開発に携わったご当地アイスモナカにも使用されていますが、意外とその名前(全21種類)を挙げるのは難しいのではないのでしょうか?



そこで、今春、これら和和伝統野菜のさらなる普及を目指して本学学生たちが立ち上がりました。結成されたグループ名は「農ガールズ」!!(本学学生7名、社会人1名の計8名)。地元農家の協力のもと、6月から奈良市内に借りた約1ヘクタールの畑に種を撒き、講義等の合間を縫って農作業に励んできました。

梅雨の長雨、夏の猛暑など天候に左右される初めての農業体験は多くの苦労を伴う一方で、「農業のイメージアップにも貢献したい」とおしゃれな作業着もあつらえました。そして、実った約1トンの野菜たち。

9月28日、本学学生の国清紘子さん(生活環境学部3年次生)と渡辺亜友加さん(文学部2年次生)はそろいのTシャツ姿で県庁の荒井知事を表敬訪問し、とれたての大和野菜6種類を贈りました。

「農ガールズ」の取り組みは、大和野菜への関心だけでなく、若者による・若者のための農業活性化活動として注目を集めそうです。



## ★本学附属中等教育学校創立百周年を記念した聖火リレー

本学附属中等教育学校は本年5月に創立百周年を迎えました。生徒たちの間では、これを記念した聖火リレーを行うプランが持ち上がり、学園祭前日の9月17日、前身の奈良女子高等師範学校附属高等女学校の創設の地である本学をスタート地点として聖火リレーが実施されました。懸命に走る生徒の右手の「火」は附属同窓生である東大寺森本公誠長老にお願いをして大仏殿から頂いたもの。そのトーチは1年生から6年生までの手を通して、ゴールである中等教育学校まで大切に運ばれました。





## 日本留学フェア〔台湾〕と協定大学（東海大学）訪問

7月24～25日、台湾（高雄・台北）で開催された日本学生支援機構（JASSO）主催の留学フェアに、佐久間副学長と国際課および入試課職員の計3名で参加しました。本学ブースには、合わせて150名以上の学生が訪問しました。卒業生が通訳として活躍してくれたおかげで、本学のことを深く理解してもらえる機会を得られました。翌26日には、昨年協定を締結したばかりの東海大学を訪問しました。業副学長ほか国際交流スタッフの皆さんに歓迎していただき、有意義な情報交換を行いました。



東海大学にて記念撮影

## 帰国留学生報告会（学長との懇談会）



さまざまな体験談を学長に報告

8月6日、学生交流協定に基づき留学していた学生が帰国したのを機に、野口学長を囲む懇談会形式の報告会を実施しました。留学先での体験談を報告書や写真などを示しながら熱心に語る学生らに、野口学長から様々な質問がありました。今後も、こうした報告会を恒例化し、多くの方に学生の経験を伝える場を確保することを検討しています。

## 海外短期語学研修

8月20日～9月17日、恒例となった南京大学での4週間の中国語語学研修を実施しました。研修生14名は、充実した学修を終え、無事帰国しました。この研修を経て、中国への留学を考える学生が増えており、語学研鑽に自信をつける良い機会となっています。



南京大学での講義の様子

## 日本人学生と留学生の交流事業



海鮮バーベキューは楽しい！

8月10日、今年3回目となる日本人学生と留学生の交流を図るためのイベントを実施しました。初めに、参加した学生らの紹介を兼ねてレクリエーションゲームで親睦を深め、その後、泉州岡田浦で地引網とバーベキューを体験しました。お土産には、獲れた魚を持ち帰るなど、真夏の1日を楽しみました。

## 外国人留学生実地見学旅行

9月16～17日、日本の歴史・文化・自然等について理解を深め留学生相互の親睦を図ることを目的として、福井方面への見学旅行を実施しました。1日目は、伝統的な越前和紙の手漉き体験と大安禅寺において座禅を学びました。2日目は、東尋坊を見学しました。荒天の影響で、予定していた船からの見学ができなかったのですが、行程を一部変更し、有名な越前竹人形の工房を見学することにしました。また、名産のかまぼこ作りにチャレンジし、形はいびつながらも、できたての美味しいちくわやかまぼこをいただきました。2日間を通して、伝統を守り、自然の恵みを利用した伝統的な産業を知ることができ、貴重な日本の文化研修となりました。



座禅：両足を上げられる人は余命30年保障！



手漉き体験：どんな作品ができるかな？

## 国際交流往来

☆6月14日、協定大学である米国ノースカロライナ大学グリーンズボロ校の高木千明氏が来訪しました。高木氏は日本語の担当教員で、留学生の派遣担当をされています。より多くの学生を送り出したということで、本学や他の協定大学の現状を視察に来られました。

☆6月17日、米国テキサス州にあるAlamo CollegeのPatricia Garza氏が、積極的に語学研修の留学生を交換したい意向のもと、本学を来訪しました。通訳には、ノースカロライナ大学グリーンズボロ校に交換留学していた学生に活躍してもらい、学内の案内などをお願いしました。帰国したばかりの学生にとっては英語力を試すいい機会となったようです。

☆6月17～18日、本年2月に訪れたタイ王国大使館のWarin Sukcharoen氏から依頼を受けていた、タイ国の教員研修への協力を行いました。中等教育学校での実地見学のほか、最後の研修地であった本学では講義や活発な討議を行いました。



中等教育学校での研修風景



記念館前で記念撮影

☆7月13日、北京の首都経済貿易大学会計学院の学生12名が本学を訪れました。小山国際交流センター長から、大学の歴史などについて学んだ後、図書館では「奈良地域関連資料画像データベース」について説明を受けました。

## 国際交流基金

### —奨学金授与式—

（外国人留学生奨学金6月11日、派遣学生奨学金8月23日）

奈良女子大学国際交流基金（平成12年度設立）は、外国人留学生及び協定校への派遣留学生に対する奨学事業を実施しています。



奨学金授与式

今年度も外国人留学生9名、派遣留学生3名を対象に奨学金採用決定通知書授与式を挙行了しました。式では、野口学長から対象者に決定通知書が授与されるとともに、基金設立



学長から決定通知書を授与される学生

の趣旨や事業実施の経緯等についての説明の他、授与者の活躍について激励の言葉がありました。

なお、この事業の実施から今年度までの奨学金授与者数は、延べ126名にのぼっています。

### —使途報告—

平成22年度は、次のとおり留学生等に対し支援を行う予定です。

- 外国人留学生奨学金9名（博士後期課程4名、博士前期課程5名）  
一人月額4万円 1年間 計432万円
- 派遣留学奨学金 2名 一人10万円 計20万円
- 留学生スピーチ大会援助  
10名分 発表者に一人1万円の図書カード 計10万円

編集・発行 奈良女子大学広報企画室  
編集責任者 佐久間春夫（副学長）  
連絡先 奈良女子大学総務・企画課  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205  
E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

